



発行所
津田サイエンスヒルズ
まちづくり協議会
〒573-0128
枚方市津田山手2-9-5
大阪大学内
TEL (072) 858-5901
FAX (072) 858-5904
(題字: 墨アーティスト 樋笠幸三書)



北部校予定地は上部のグラウンドとコアまで22,400㎡の敷地

府立技専校

津田ヒルズに進出

平成25年4月開校へ

大阪府は昨年12月、ものづくりの技術者を育成する府立高等職業技術専門校の再編計画で東淀川校と守口校を統合した新設校を平成25年4月、津田サイエンスヒルズに開校す

る方針を決めた。整備用地として同ヒルズ内に、森下仁丹(株)大阪テクノセンター左側のグラウンド用地・コアを含む約22,400㎡を確保でき、開校予定となる。

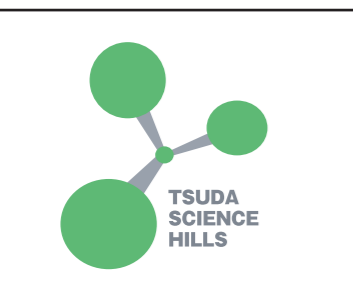
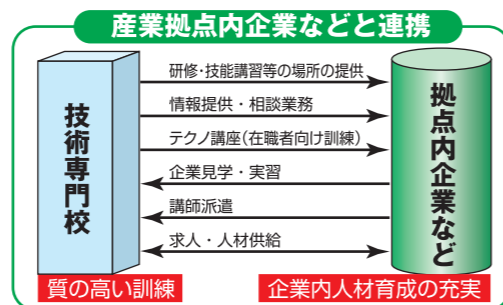
北部校(仮称)は、周辺企業との連携をはじめ地域における職業能力開発の中核施設として整備する。

津田サイエンスヒルズは、北河内・北大阪地域における新しい産業拠点の一つであり、企業立地も進んでいることから、北部校の設置場所が決まる。

北部校の機能・役割
(1) 公共職業能力開発機能
ものづくりの要素

技術・技能を訓練する
○若者の再チャレンジを促す
○産業拠点企業からの技術支援
優秀な若年ものづくり人材の育成と機械系、電気、電子系、建築系の訓練を実施する。

り、双方にメリットが得られる。
今後の整備スケジュールは、平成21年に基本計画策定、22年に実施設計、23、24年に建設工事が行われ、25年当初に開校予定。



■ ロゴイメージ

科学・ものづくり・コミュニケーションを基本に。各企業のネットワークを生かし、全国発信へオンリーワン企業をめざす。

■ ロゴカラー

自然環境豊かな丘陵地に位置するオンリーワンものづくりのまち。

ホームページを開設

津田サイエンスヒルズ
まちづくり協議会
ホームページアドレス
<http://tsuda-science.jp>
メールアドレス
matikyoku@tsuda-science.jp

津田サイエンスヒルズ指し板



代表取締役
坂本 喜晴氏

敷地面積の75%を緑化 8000本の樹木を育てる

株式会社 坂本設計技術開発研究所

坂本社長は、社屋の植栽計画にあたり「造園屋さんが、斜面に作品を作りたいということに始どお任せした。凶面も無く、完成期日もなく、

職人社長の心意気に惚れ込んでお願いした。」平成17年10月から少しずつ始めて、18年の3月末に90%を終えた。種類は約200種類、本

数は約8000本、年中花が咲いているように植えた。南面は常緑樹、西面は落葉樹、北面はブナ、クヌギ、樅などの雑木と果

樹を、10年後、20年後の周辺環境をイメージした植栽計画になっている。植栽の中には、「哲学の道」があり、散歩できるようなっている。夏は涼しく、緑も年々美しくなり、社員心の健康にも役買っている。1年目、2年目の夏は殆ど毎日、朝5時から水やりで大変だった。今年で4年目を迎え、水やりも殆ど不要になり、緑の量も見違えるようになっていく。

人間一人当たりの排出炭素を浄化するには、成木300本が必要とのこと。会社の環境責任を考え、法面を有効利用して敷地面積の75%を緑化した。

最後に社長は「当社の緑化面積など小さいものかもしれませんが、微力ながら地球環境の保持に貢献したいという意識を持っている」と語った。



緑豊かな庭・坂本設計の正面入り口側

里山の自然コンサートに家族で参加しませんか!

来る4月12日(日)午前10時、サイエンスヒルズ近接の津田山において、里山啓発イベント「森いきいき・人いきいき山桜コンサート」を開催する。主催は、津田共有林組合の川崎組合長を執行委員長として、地元的地権者団体や市民ボランティア団体、大阪府、枚方市などが参加して、特別ゲストとの植樹

や森のコンサートなど、楽しいイベントが開催されます。この機会に、津田サイエンスヒルズの企業の従業員の皆様も、身近な山・津田山へご家族お揃いで参加しませんか。里山の入り口は坂本精器株式会社と森下仁丹株式会社大阪テクノセンターの間です。



「夫婦岩」より街を望む

参加者の皆様からも「次回も開いてほしい」との声も多数寄せられていましたので、1月22日、麻生実行委員長(吉泉産業)ら6名の実行委員が準備会を持ち、3月6日に第2回ボーリング大会を企画。多数のご参加をお待ちしております。正式な案内は、2月上旬に送付しました。

津田サイエンスヒルズ杯 第2回ボーリング大会のご案内

3月6日(金)午後5時45分
枚方市牧野松園ホールにて

昨年の2月22日開催の第1回ボーリング大会は、各企業の皆様のご支援とご協力で49チーム・

196名が参加し、大成功に終わることができた。参加者の皆様からも



フードスライサーで鮭をカット

海外進出も視野に
フードスライサーメーカーとして知られる吉泉産業(株)は、もともと「熱処理関係の仕事が主」だった。昭和40年、50年代に入り、外食チェーンが隆盛となった。ある日、大阪ミナミの道具屋筋の業務用備品を多く扱う場所「ネギ



代表取締役 佐々木 啓益氏

吉泉産業株式会社

「その後、お好み焼き用のキャベツ、惣菜・ハム、魚など、少しずつ種類を増やすようになった」
同社が全国的に注目を浴びるようになったのは、昭和50年代に開かれた見本市に出展してから。訪れた人から「助かるわ」という声を直接聞き、発展の可能性を確信した。

流通形態が変化し、大量生産・大量流通の時代を先取りし、大きく飛躍した。同社の開発した商品はバックヤードで活躍し、企業の業績を伸ばすことに貢献した。

現在では津田ヒルズに位置する地の利を生かし、阪大のレーザー研究所と連携を行い、食品をスライサーで切断することも視野に入れていく。「これからは東南アジアへの進出も考えている」今年、吉泉コリアを現地の方と共同出資で設立する予定。



3次元CADで食品機械を設計中

津田ヒルズ立地企業を訪ねる

当エリアに入居している企業の業務内容や社会的意義を順次紹介

株式会社伸和製作所

第二工場を増設



代表取締役 能美 一夫氏

株式会社伸和製作所は、23年前の昭和61年に前進である『能美製作所』を設立し、その歴史が始まる。人がやらないような仕事(加工)をコツコツと

頂きながら、まさにガレージカンパニーからの出発。
『4年後に茨木市に移転して、その頃から組立も行う加工関係の仕事が増えてきた』しかし、今から思えばそこで出会えたのが、現在の匠の技の源であった。
平成16年には、津田サイエンスヒルズに移転。現



充実した測定器が並ぶ検査室

略を立てたい』また、『モノづくり加工技術を津田サイエンスヒルズから発信して行きたい』と能美社長は語る。

在の営業品目は、精密油圧加工部品及び組み立て・船舶用ディーゼル

この2、3年は辛抱の時期。10年先の高度化技術に向けた、新たな戦

最後に今後の展望は、

エンジ部品加工及び組み立て・変圧器部品加工・工業用ミシン部品加工・印刷機械部品加工など。
業務の拡大に伴い、工場の増床を行った。『増設した第2工場には、船舶用ディーゼルエンジン部品の組み立てラインを設置、合わせて検査室の充実などが主な理由』また、ベトナムからの人材を受け入れ会社の大きな戦力としていることも他社にない特徴だ。『ベトナム人は、感覚が日本人に近い。よく働いてくれる』

森下仁丹(株)大阪テクノセンター竣工 最先端の研究開発型工場”始動

昨年の12月10日、枚方市の津田サイエンスヒルズ内に、森下仁丹(株)大阪テクノセンターが開設され、当日、竣工祝賀会が盛大に開催された。森下仁丹(株)から、駒村社長始め役員ら、来賓として大阪府から企業誘致担当の高橋理事、竹内枚方市長、出井市議会議長、地元として津田ヒルズまちづくり協議会の佐々木会長ら



津田サイエンスまちづくり協議会新年交流会
1月23日開催 前列中央 佐々木会長・竹内枚方市長

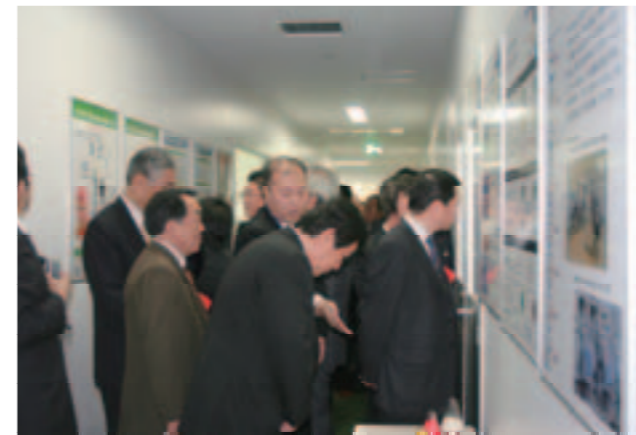
が出席した。大阪テクノセンターでは、同社の基幹事業であるヘルスケア事業や、世界的な特許技術を有するシームレスカプセル(医薬品などに用いられる均質で継ぎ目のないカプセル)事業の研究開発が

行われている。さらに、胃で溶けずに腸で溶ける耐酸性シームレスカプセル化技術を応用した経口腸チフスワクチンの開発など、その研究の先端性が認められ、大阪府先端産業補助金認定施設として認定されている。カプセル技術は、日本生物工学会にて「生物工学技術賞」を受賞するなど、今後の研究に、期待が高まっている。



駒村社長(中央)・来賓者による鏡割り

第18回全国産業教育フェア大阪大会に津田ヒルズも「ブース展」に参加



地元まちづくり協議会も見学会に訪れる

津田サイエンスヒルズまちづくり協議会は、「バックパネル机上のブラス展」に参加した。当会は、津田ヒルズの航空写真パネル、立地企業名と事業内容を示したパネルや新しく作成した総合パンフレット・まちづくり協議会ニュースを来場者に手渡し、多くの方がブースに訪れた。



6万余名の来場者が訪れる

第18回全国産業教育フェア大阪大会が、昨年の11月2、3日の両日、大阪市住之江区のアジア太平洋トレードセンター(ATC)で開かれ、6万余名の来場者があった。